

45. 20200520 奈良県の森林・林業(森林環境概論)

奈良県環境税で賄われる講座に参加したときの受講ノート(2011. 10. 15)

講師は奈良県農林部森林整備課 内田 亨氏だった。時間を経過しているが、沿革の大筋は現在も生きていると思われるので再録する。

1. 森林とは
広範囲にわたって樹木が密集している場所で、樹木だけでなく、そこに存在している生物および土壌を含めた総体を指す。(森林という生態系全体)
2. 人工林とは
人の手により植栽されたり、天然更新して成立した森林。
3. 天然林
天然の力により成立している森林。
4. 原生林
天然林の中でも、災害による消失や人の手による改変がなされていない森林。
5. 二次林
天然林の中でも、災害や人手により、その土地本来の自然植生が改変された後に、再生した森林。(二次的自然環境…里山林が代表で、継続的に人の手が入っている。)
・放置しておく、ブナやミズナラナラに遷移していくはずだが、人の手が加わってできた生態系(たとえばマツ、クヌギなど)になっている。
・レッドデータブックにある昆虫の80%が二次林を生育場所にしている。
6. 奈良県の森林は28万4千ヘクタール 県全体の77%になる。
(日本全体の森林割合は68%、世界全体では30%)
7. 奈良県の森林は民有林が95%…そのうちスギやヒノキなどの人工林が62%を占める。
(東北と山梨県は国有林が多い。)
8. 人工林は戦後に植栽されたものが多く、手入れの手間がかかる3~12齢級(15~60年)のものが75%を占めている。
9. 奈良県の4大林家は仲野、岡橋、谷、北村の4軒である。林業技術を持たないものもあるが、大阪の市場を吉野ダラーとして牛耳っていた。
10. 農林部の担当は川上は森林整備課が、川下を森林振興課が担っている。
11. 林業のサイクル
植栽→下刈り(植えて5年は必要)→枝打ち(木材の節をなくすために必要)→除間伐(間引き)→主伐(このサイクルは60年)→搬出……サイクルが回る。
・沢山植えてあると、年輪の幅が狭くなり、構造的に強い材になる。(6000本/ha)
12. 林業
植栽してから60~100年経って初めて現金収入となる。
13. 林道・作業道・架線・ヘリコプター→木材市場・製材工場などへの出荷。
14. 高性能林業機械(ハーベスタ、プロセッサ、フォワーダなど)の活用。
15. 吉野林業は吉野川上流の川上村、東吉野村、黒滝村を中心にして発展してきた。
16. 吉野林業の歴史
・1500年頃に川上村で人工造林が始まる。
・大坂城・伏見城の建材用材として使われる。

- ・1700年頃 借地林業・山守制度が始まる。
 - ・1930年頃 樽丸生産が最盛期を迎える。
 - ・現在は優良材生産地として主に高級材を生産している。
17. 奈良県の地形は他県に比べて急峻なため、林道・作業道の整備が全国平均を下回る。
このため高性能林業機械の導入も遅れている。
18. 全国的に山村地域の過疎化や林業生産活動の低迷等により、林業就業者の減少と高齢化が進行している。
昭和50年 5372人 平均年齢48歳
平成17年 1080人 平均年齢57歳
19. 木材価格は平成2年がピーク(立方メートル当り)
ヒノキ 10万円強→現在2万円強
スギ 4万円強→現在2万円弱
20. 奈良県の森林・林業の現状
- ・木材を搬出すると赤字になるので、伐採が手控えになる。
 - ・主伐しても跡地に植栽されない森林が増加している。(次の投資が行われない。)
 - ・間伐した木材が放置された人工林が増加している。
 - ・適切な手入れがされていない人工林(施業放置林)が増加している。
21. 奈良県としての施策
- ・森林を重視すべき機能等に応じて、木材生産林と環境保全林に区分して展開する。
(赤字を出さない山と木材を生産しない山に区分する。)
22. 木材生産林の取り組み…県産材の安定供給と県産材の利用推進
23. 環境保全林の取り組み…森林の適切な保全と活用
- ・施業放置林の整備
 - ・森林生態系の保全
 - ・里づくりの推進
 - ・森林とのふれあい推進
 - ・彩りのある景観づくり
24. 奈良県で全国育樹祭の開催 2011年11月20日(日)
25. 野生鳥獣対策 駆除・捕獲・メスジカ捕獲への支援
26. 林業生産基盤の整備 治山事業の実施、基幹となる林道の整備

以上